



平成 29 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社レッド・プラネット・ジャパン  
代表者名 代表取締役社長 ティモシー・ハンシング  
(JASDAQ コード : 3350)  
問合せ先 取締役 CFO 王生 貴久  
電話番号 050-5835-0966

**(開示事項の経過) Red Planet Hotels Pasong Tamo Corporation の  
第三者割当増資引受による株式取得及び資金の貸付のお知らせ**

当社が、平成 27 年 1 月 23 日付「Red Planet Hotels Pasong Tamo Corporation の第三者割当増資引受による株式取得及び資金の貸付のお知らせ」で開示いたしました、当社親会社であります Red Planet Holdings Pte. Ltd. (以下「RPH 社」といいます。) がフィリピンにホテル運営のために設立した特定のホテル保有会社 Red Planet Hotels Pasong Tamo Corporation (以下「SPC」といいます。) に対する出資金及び貸付金の状況につきまして、以下のとおり、ご報告いたします。

記

1. これまでの経緯

当社は、資金運用及びグループ全体の企業価値向上等を目的として、平成 27 年 1 月 23 日開催の当社取締役会において、SPC に対する第三者割当増資の引き受け及び資金の貸付を行うことを決定し、SPC に対して約 26 百万円の出資及び 450 百万円の貸付を行いました。SPC は持分法適用関連会社ではありませんが、それ以来、人事交流などを通じてグループにおけるブランディング及びサービス品質の向上などに努めてまいりました。

また、当社は、SPC との間で上記の新株引受契約及び貸付契約を締結するにあたり、各契約書に以下の条項を設けました。

- ① 当社は、本株式取得について、新株引受契約締結後 3 か月を経過した時から SPC の親会社にあたる Red Planet Holdings (Philippines) Limited (以下、「RPHPL 社」といいます。) に対し、購入価格に 10%のプレミアムを上乗せしたプット・オプションを書面で通知することにより行使することができ、RPHPL 社は、書面受領後 15 日以内にこれに応じなければならない。
- ② 当社は、本貸付について、貸付契約締結後 3 か月を経過した時から、少なくとも 7 日前までに SPC に書面で通知することにより、元金全額とともに年率 12%の利息または元金全額に対する 10%の固定額を受け取ることができる。また、本貸付については、

RPHPL 社の保証を付ける。

しかしながら、平成 27 年 9 月末時点で、SPC に対する貸付の返済が完了していなかったため、監査法人と協議した結果、当社は、平成 27 年 9 月期決算において、SPC に対する貸付金全額について貸倒引当金を計上したほか、SPC に係る投資有価証券評価損として 28 百万円を計上することとなりました。

## 2. 現在の状況について

当社は、早期の営業利益又は営業キャッシュ・フローのプラスを至上命題としており、それに向け、飲食事業及びディストリビューション事業の譲渡等、抜本的な事業構造の改革を優先的に進めてまいりました。そのため、当初は短期間の融資としていた本貸付に関しまして、他の経営課題を優先し、回収に向けた社内での協議や SPC との交渉ができておりませんでした。

今般、ディストリビューション事業の譲渡が確定し、ホテル事業拡大に向けて当社の資金需要も高まっている状況であることから、当該貸付金の回収を最優先課題とすべく、SPC 及び RPHPL 社の状況を当社取締役等に確認させ、貸付の回収可能性について検討してまいりました。SPC 及び RPHPL 社と話し合ってきた結果、当該ホテルである Red Planet Hotel Amorsolo が稼動してまだ間もなく、返済原資となる剰余金が十分に積み上げるにはまだしばらく時間がかかるという報告を受けたこと、本貸付を行った時点から状況が異なり、Red Planet グループとして複数のホテル案件が立ち上がり新たな資金需要が発生したこと等の理由により、RPHPL 社の保証を利用してまで直ちに強制的な回収手段を講じることはグループ内の資金効率上最適ではないとの説明を受けたこと、また最終的な返済の意図も確認できたこと、さらに、当社としても、現時点においては、先般の第三者割当による新株式の発行により 17 億円を調達しており、ホテル事業の進捗状況等を踏まえると当面の資金繰りに問題はないこと、年率 12%の利息に加え弁済時に 10%のプレミアムが付与されること等から、当初の本融資の目的は短期であったものの、現時点では引き続き状況を見守ることといたしました。なお、現地ホテルの稼動は好調で、EBITDA は開業以来黒字であることも確認しております。このような状況で当社は、平成 28 年 9 月 27 日付「第三者割当による新株式及び第 7 回新株予約権の発行並びに主要株主及び親会社の異動に関するお知らせ」のとおり、総額 80 億円の増資を実施しております。当社としては、SPC への貸付が回収されていた場合であっても当社の事業拡大に向けて増資による資金調達を可能な限り最大化する目的からも本増資を実行していたため、未回収の現状が増資の判断には影響がなかった旨、念のためお知らせいたします。

## 3. 今後の見通し

上述のとおり、今後当社は、定期的に SPC の状況を確認し貸付金には返済期限を設定していないため、グループ内で協議をしながらタイミングを決めてまいります。最終的には、当社の資金繰り等の状況により必要と判断する場合には、権利を行使し全額回収する方針

であります。開示すべき事項が発生した場合は、速やかにお知らせいたします。

なお、出資金については、引き続き当社で SPC の株式を保有する方針であります。方針の変更等が発生した場合には、改めてお知らせいたします。

以 上